

第40回

長浜企業 景況調査

報告書



実績 2026年 4月～ 6月
見通し 2026年 7月～9月

アプリのご紹介

スマホやタブレットでご利用いただける、長浜商工会議所の専用アプリケーション“長浜商工会議所 News”をリリースいたしました！
発信した情報を「いち早く」「多くの方に」見ていただくことを目的に作成したアプリです。
補助金やセミナー・イベント情報等々、情報に更新があるとアプリに通知が届きます☆(要設定なので、ぜひプッシュ通知はONにしてください！)
健康診断や検定試験などのご案内もございますので、代表や担当の方だけでなく、社員皆さままでご活用いただけたらと思います(^^)

■Android・タブレットをご利用の方⇒
Google Play ストアからダウンロード



■Iphone・ipad をご利用の方⇒
App Store からダウンロード



「長浜商工会議所」とご検索ください(^^)/



今期のトピックス

- ① 人材確保の状況について
- ② 中東情勢等の国際情勢による影響について



 **長浜商工会議所**
NAGAHAMA Chamber of Commerce and Industry



コンテンツ

- 01 調査概要

02 今期のトピックス

03 全体の景況感（総括）

04 調査項目別 DI 値

04 業種別業況 DI の推移（長期トレンド）
- 05 業種ごとの動向
（卸売業・小売業・サービス業・建設業・製造業）

07 設備投資の有無

08 調査項目別 DI の推移

10 その他業種別自由意見

調査概要

長浜企業景況調査について

- ①調査対象期間・調査時点
調査対象期間：令和8年4月～6月
調査時点：令和8年7月1日
- ②調査方法
長浜商工会議所会員企業220社へのFAX方式
・メール方式による調査
- ③調査対象企業数
220社（内訳は右表通り）
- ④報告者
中小企業診断士 川副 郷一郎

	調査対象企業数		有効回答企業数		回収率
	企業数	構成比	企業数	構成比	
卸売業	21	9.5%	15	11.3%	71.4%
小売業	35	15.9%	19	14.3%	54.3%
サービス業	84	38.2%	45	33.8%	53.6%
建設業	38	17.3%	20	15.0%	52.6%
製造業	42	19.1%	34	25.6%	81.0%
合計	220	100.0%	133	100.0%	60.5%

長浜企業景況調査の見方について

DI 指数について

- ①調査結果を示す指数としてDI指数を採用しています。
- ②調査項目のうち、「業況（自社）」「売上高」「採算（経常利益）」「資金繰り」「従業員」「販売価格」「仕入価格」「業界動向（同業他社）」「長・短期資金借入難易度」「受注動向（建設業）」「在庫量（製造業）」の DI 指数は前年同期と比較しています。
- ③「取引の問合せ」と「採算の水準」のDI指数は前年同期比較ではなく調査対象期間の水準を評価した数値です。

DI 指数の見方について

- ①DI指数がプラスであれば好調の企業数が不調の企業数を上回っていることを意味し、プラスの値が大きいほど「好調」の企業割合が多く「景気がよい」と判断されます。
- ②このDI指数を前期、今期、来期とグラフで示すと、その傾向を読み取ることができます。
- ③業況DIは経営者の景況感を反映しています。主観的な要素もはいますが、売上高や収益動向で判断される傾向が強いです。
- ④資金繰りDIは概ね景気循環と連動していますが、政策の影響が景気の低迷期で認められています。
- ⑤小売業は売上高DI、卸売業は資金繰りDI、サービス業は従業員DIの推移が注目する指数です。
- ⑥建設業は季節による影響が業況DIに認められています。これは公共工事との連動のためで1～3月期は総じて低調な傾向となります。

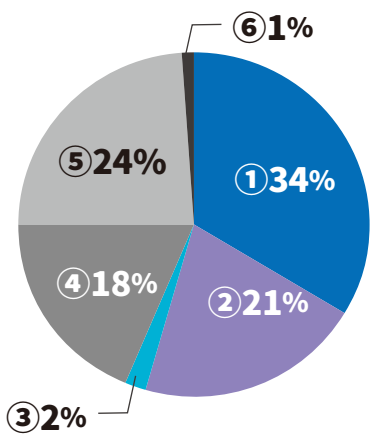
設備投資の見方について

- ①好景気では「生産力増加」「合理化省力化」投資が増加し、景気の後退期では「設備更新」投資の割合が増える傾向にあります。

今期のトピックス

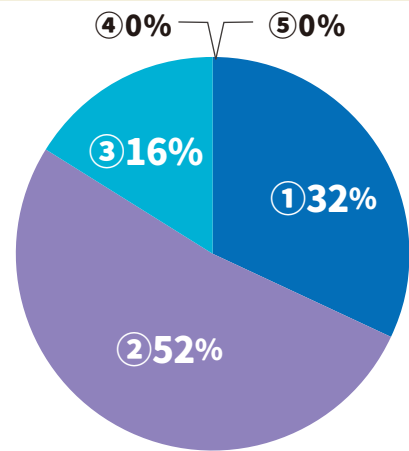
1. 人材確保における課題

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
① 応募者数が少ない	6	5	8	9	14	42
② 必要な技能・経験を持つ人材がいない	3	1	11	5	6	26
③ 採用しても定着しない	1	0	2	0	0	3
④ 人件費負担が大きい	2	5	10	3	2	22
⑤ 特に課題はない	2	7	12	2	7	30
⑥ その他	0	0	0	0	1	1
合計	14	18	43	19	30	124

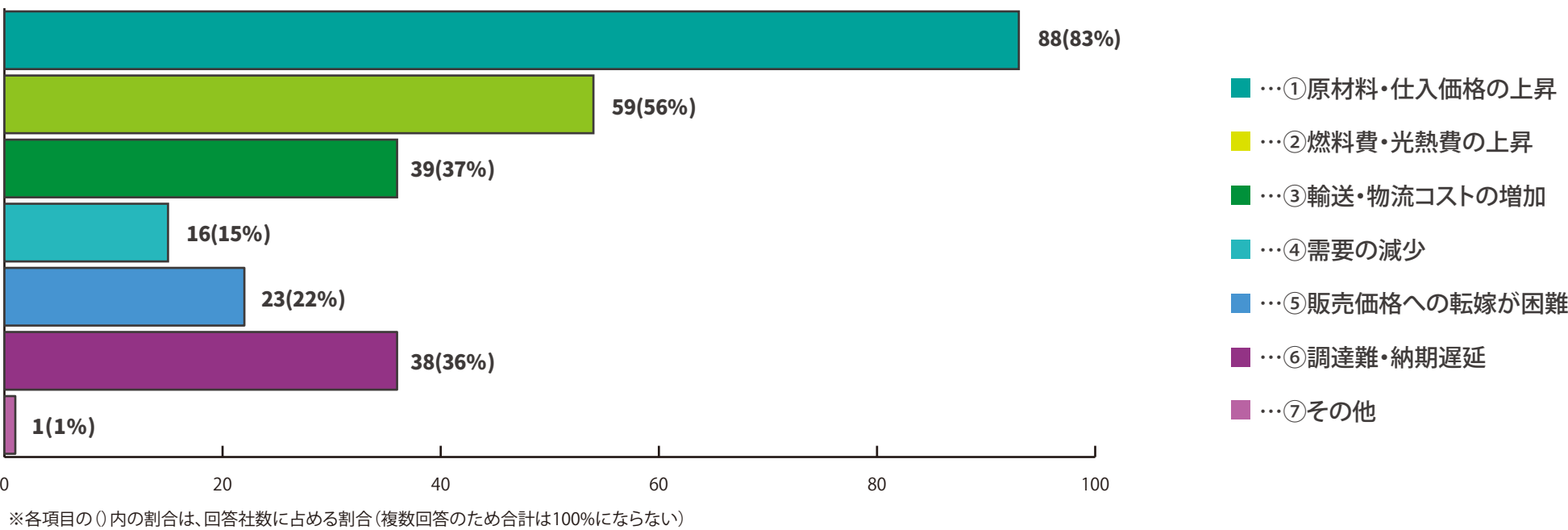


2. 中東情勢等の国際情勢による経営への影響

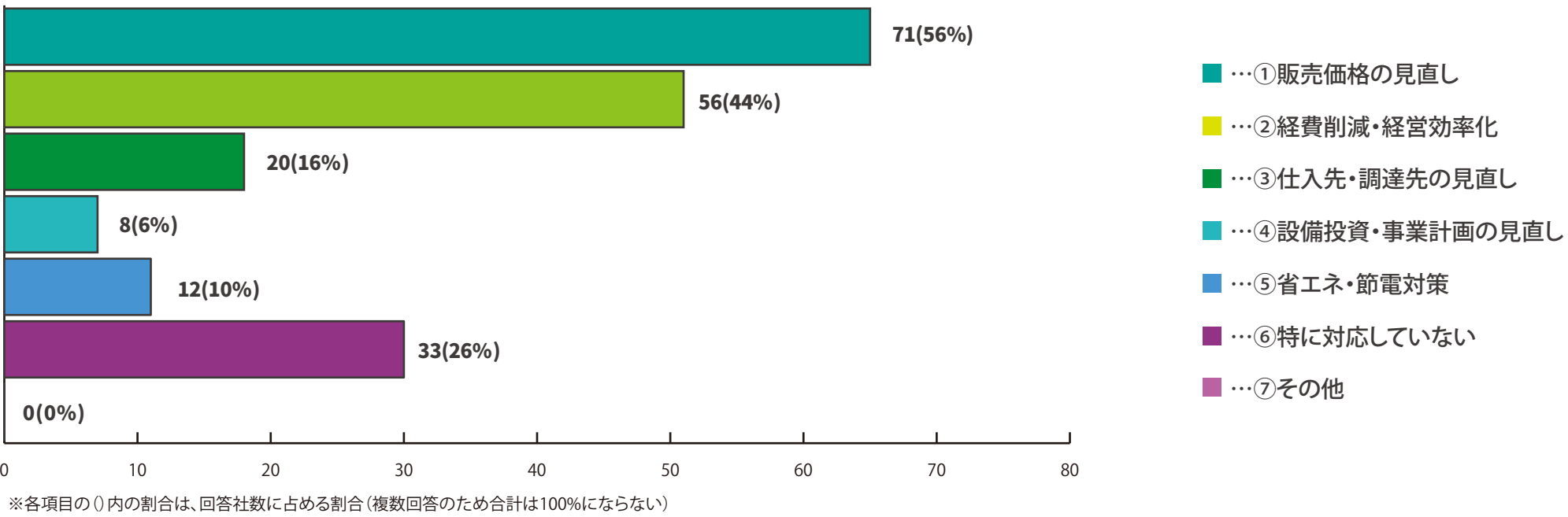
	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
① 大きな悪影響がある	5	7	9	10	10	41
② やや悪影響がある	8	11	22	4	20	65
③ 影響はない	2	0	12	4	2	20
④ 好影響がある	0	0	0	0	0	0
⑤ わからない	0	0	0	0	0	0
合計	15	18	43	18	32	126



2-2. 上記で①または②と回答した場合、具体的な影響（複数回答あり、有効回答社数 106 社、回答数 264）



3. 国際情勢の変化に対して実施している、または検討している対応（複数回答あり、有効回答社数 126 社、回答数 200）



全体の景況感（総括）

業況DIは4期連続上昇し、2期連続プラス圏

全体の業況DIは、前期（2026年1－3月期）の4.5から今期は9.8と4期連続上昇し、かつ2期連続プラス圏となりました。売上高DIは15.8で前期比6.0ポイント上昇し、採算（経常利益）DIは2.3で同3.8ポイント上昇し20期ぶりにプラス圏となりました。

販売価格DIは53.1で前期比6.5ポイント上昇、仕入れ価格DIは70.9で同4.1ポイント低下しました。その結果、販売価格DIから仕入れ価格DIを差し引いた価格転嫁度は▲17.8で、同10.6ポイント改善しました。従業員DIは▲24.8で、同0.4ポイント不足感が強まりました。

来期（2026年7－9月期）の業況DIは5.4で、今期より4.4ポイント低下しますがプラス圏を維持する見通しとなっています。

前期調査における今期の業況DIは▲6.9で11.4ポイント低下する見通しでしたが、今期実績は9.8で5.3ポイント上昇しました。イラン情勢の混乱や円安等によるコスト上昇が強まる中、企業の価格転嫁努力に加え、2月1日から始まった北近江豊臣博覧会や6月1日からの「ながはま割」の効果、AI・半導体関連需要の強さなどが景況感を押し上げたのではないかと考えられます。

業況DIは製造業を除く4業種で上昇

業種別の業況DIは、製造業を除く4業種で上昇しました。売上高DIは、製造業、小売業、サービス業で上昇しましたが、卸売業は横ばい、建設業は低下しました。採算DIは、サービス業と製造業を除く3業種で低下しました。従業員DIは、卸売業、建設業で不足感が強まり、サービス業は横ばい、小売業、製造業で弱まりました。

卸売業は、売上高DI（0.0）が横ばい、採算DI（▲13.3）が低下しましたが、業況DI（0.0）は上昇しました。資金繰りDI、採算の水準DIの上昇が目立ちました。小売業は、採算DI（▲5.3）がやや低下しましたが、売上高DI（21.1）が上昇し、業況DI（15.8）は上昇しました。サービス業は、売上高DI（17.8）、採算DI（11.1）がともに上昇し、業況DI（11.1）は上昇しました。建設業は、売上高DI（▲5.0）、採算DI（▲5.0）がともに低下しましたが、業況DI（15.0）は上昇しました。製造業は、売上高DI（29.4）、採算DI（5.9）がともに上昇しましたが、業況DI（5.9）は低下しました。価格転嫁度（販売価格DI－仕入れ価格DI）の改善が目立ちました。

来期の業況DIは、製造業を除く4業種で低下する見通しとなりました。

設備投資計画はやや弱まる

本調査と同時に実施した「設備投資の計画状況」調査によると、設備投資計画が「ある」と答えた企業の割合は前期より1.5ポイント減少し27.1%となりました。最も高かったのは製造業（41.2%）で、次いで建設業（35.0%）、卸売業（33.3%）、サービス業（17.8%）、小売業（10.5%）の順でした。

投資内容では、景気回復期に強まる「生産力増加」投資（16.7%）と「合理化・省力化」投資（22.2%）の合計が38.9%と前期より3.2ポイント減少しました。

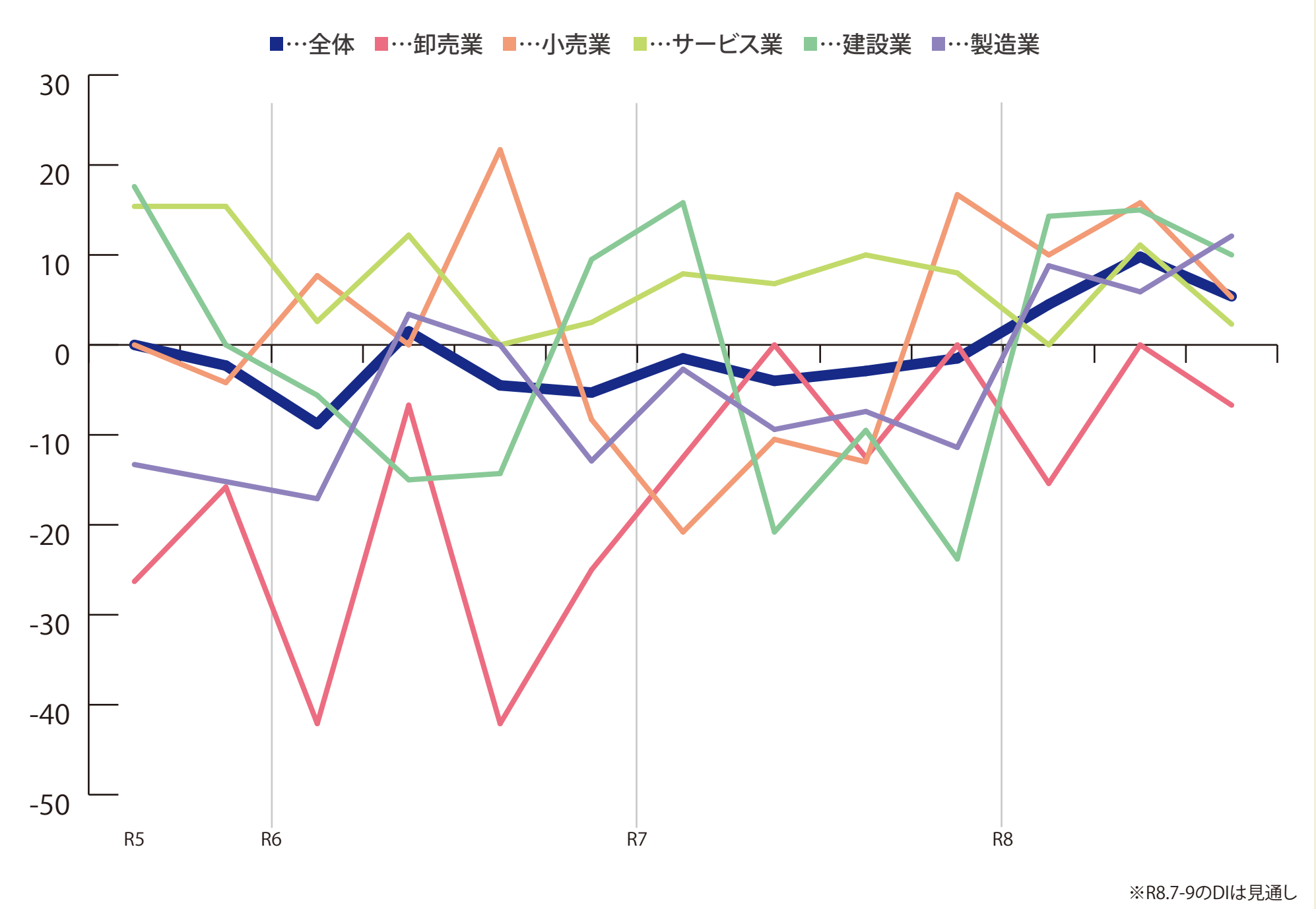
業況DIが4期連続上昇かつ2期連続プラス圏となりましたが、設備投資には慎重な姿勢が窺われます。

（中小企業診断士 川副 郷一郎）

調査項目別 DI 値

	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6	R8.7-9 見通し
業況	▲ 4.0	▲ 2.9	▲ 1.5	4.5	9.8	5.4
売上高	▲ 2.0	▲ 5.1	2.2	9.8	15.8	10.0
採算(経常利益)	▲ 9.5	▲ 9.6	▲ 3.7	▲ 1.5	2.3	0.0
資金繰り	▲ 2.7	0.0	2.3	▲ 2.3	1.5	▲ 3.1
従業員	▲ 20.8	▲ 24.3	▲ 29.1	▲ 24.4	▲ 24.8	▲ 24.6
取引の問い合わせ	▲ 6.8	▲ 12.0	0.0	▲ 3.8	▲ 4.7	▲ 3.9
採算の水準	23.8	13.5	23.5	17.9	27.7	25.8
販売価格	40.7	38.8	38.6	46.6	53.1	52.8
仕入れ価格	66.0	63.2	62.9	75.0	70.9	69.4
業界動向	▲ 17.9	▲ 21.8	▲ 15.9	▲ 21.5	▲ 17.7	▲ 12.8
借入難易度(長期)	7.1	0.8	3.1	5.6	7.1	3.3
借入難易度(短期)	9.2	6.2	8.5	8.1	8.7	4.8
受注動向(建設業)	▲ 8.3	▲ 33.3	▲ 28.6	▲ 4.8	▲ 15.0	▲ 5.0
在庫量(製造業)	▲ 14.8	▲ 8.3	10.0	0.0	3.2	3.3

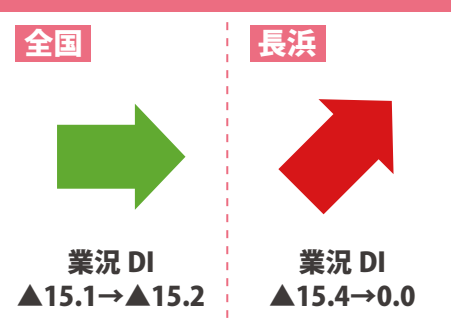
業種別業況 DI の推移（長期トレンド）



業種ごとの動向（卸売業・小売業・サービス業・建設業）

卸売業

業況の動き（3ヶ月前比較）



事業者の声

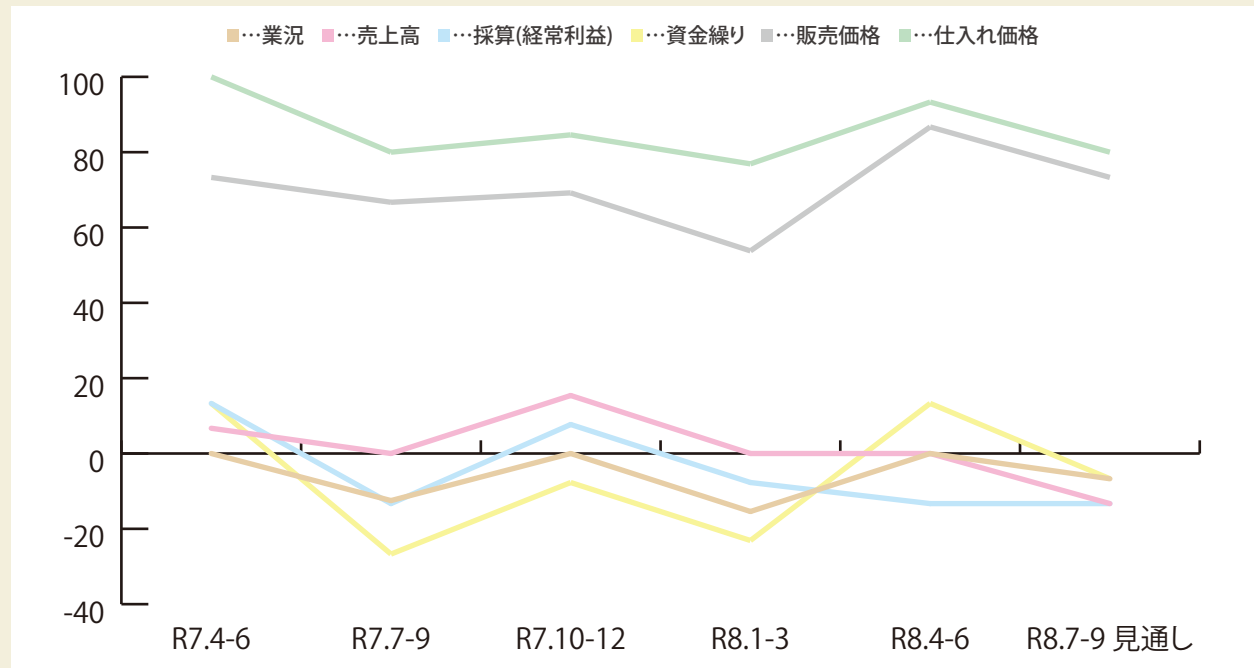
好転

- 得意先からの問い合わせや見積依頼が増えてきた
- 見積から契約に繋がるが増えてきた

悪化

- 中東情勢でオイル関係が軒並み入手困難、価格高騰
- 包装資材の価格上昇

	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6	R8.7-9 見通し
業況	0.0	▲ 12.5	0.0	▲ 15.4	0.0	▲ 6.7
売上高	6.7	0.0	15.4	0.0	0.0	▲ 13.3
採算(経常利益)	13.3	▲ 13.3	7.7	▲ 7.7	▲ 13.3	▲ 13.3
資金繰り	13.3	▲ 26.7	▲ 7.7	▲ 23.1	13.3	▲ 6.7
販売価格	73.3	66.7	69.2	53.8	86.7	73.3
仕入れ価格	100.0	80.0	84.6	76.9	93.3	80.0



業況の動き アイコンの説明

前期の業況DI値から
+1以上

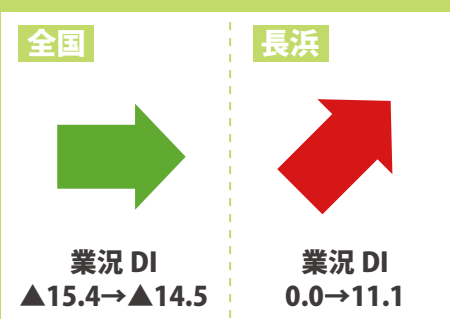
前期の業況DI値から
+1未満▲1超

前期の業況DI値から
▲1以下

※全国の業況DI...
「中小企業業況調査」
(中小企業庁)結果より

サービス業

業況の動き（3ヶ月前比較）



事業者の声

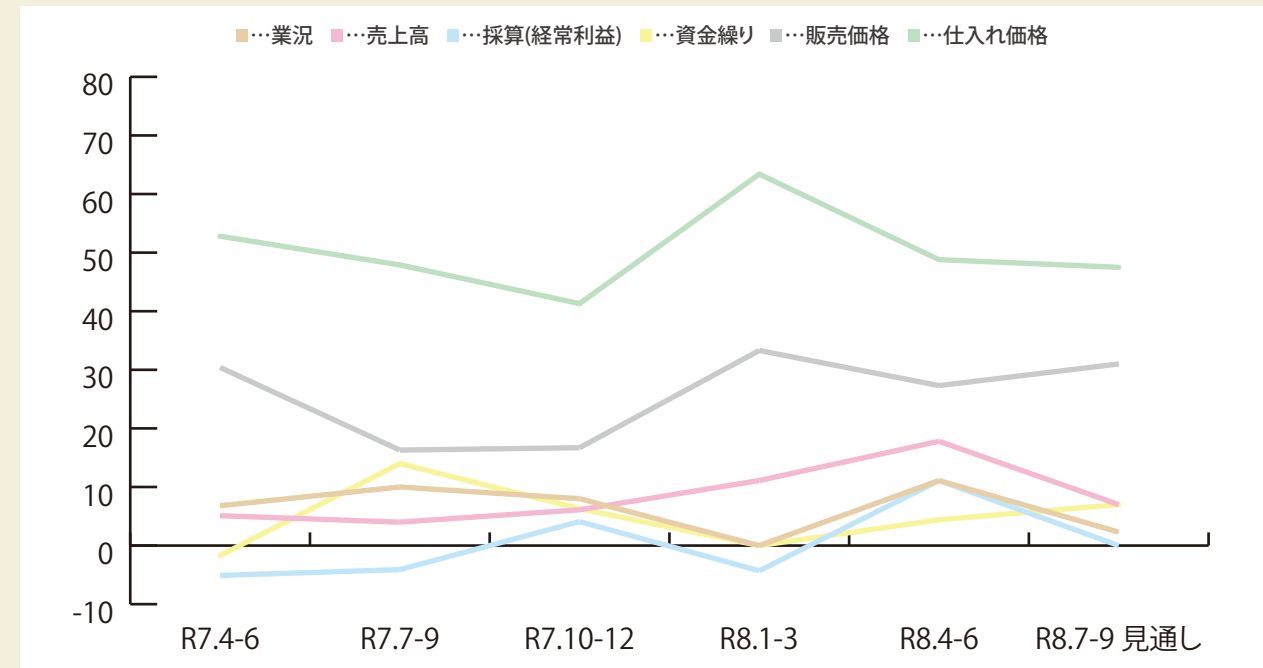
好転

- 大河ドラマの影響で観光客増加
- 新規利用者が増えた
- 少しずつではあるが若手社員が増加している
- 問い合わせが増え売上げが増えた

悪化

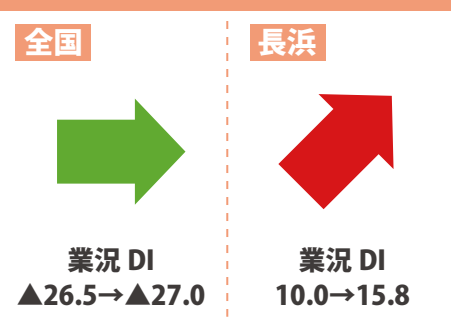
- 人件費や燃料価格等経費の上昇
- 顧客の値段への認識が厳しくなった
- 中東情勢の影響で仕入価格、納期が不透明

	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6	R8.7-9 見通し
業況	6.8	10.0	8.0	0.0	11.1	2.3
売上高	5.1	4.0	6.1	11.1	17.8	7.0
採算(経常利益)	▲ 5.1	▲ 4.1	4.1	▲ 4.3	11.1	0.0
資金繰り	▲ 1.7	14.0	6.3	0.0	4.4	7.0
販売価格	30.4	16.3	16.7	33.3	27.3	31.0
仕入れ価格	52.8	47.9	41.3	63.4	48.8	47.5



小売業

業況の動き（3ヶ月前比較）



事業者の声

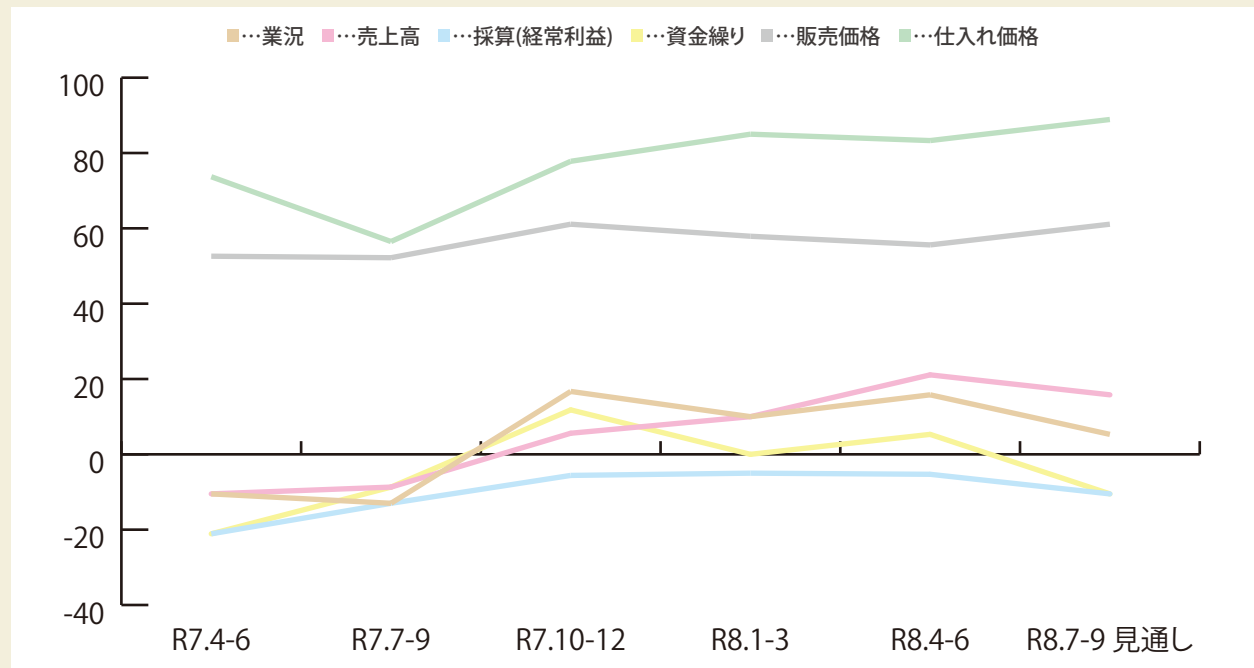
好転

- 大河ドラマの影響で好調
- ながはま割のおかげで売上げが伸びた

悪化

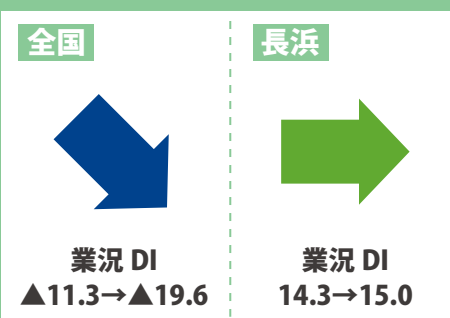
- 未だ仕入価格の上昇が止まらない
- 中東情勢による原料や資材の不足が大きく仕入自体に問題が起きる可能性が高い

	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6	R8.7-9 見通し
業況	▲ 10.5	▲ 13.0	16.7	10.0	15.8	5.3
売上高	▲ 10.5	▲ 8.7	5.6	10.0	21.1	15.8
採算(経常利益)	▲ 21.1	▲ 13.0	▲ 5.6	▲ 5.0	▲ 5.3	▲ 10.5
資金繰り	▲ 21.1	▲ 8.7	11.8	0.0	5.3	▲ 10.5
販売価格	52.6	52.2	61.1	57.9	55.6	61.1
仕入れ価格	73.7	56.5	77.8	85.0	83.3	88.9



建設業

業況の動き（3ヶ月前比較）



事業者の声

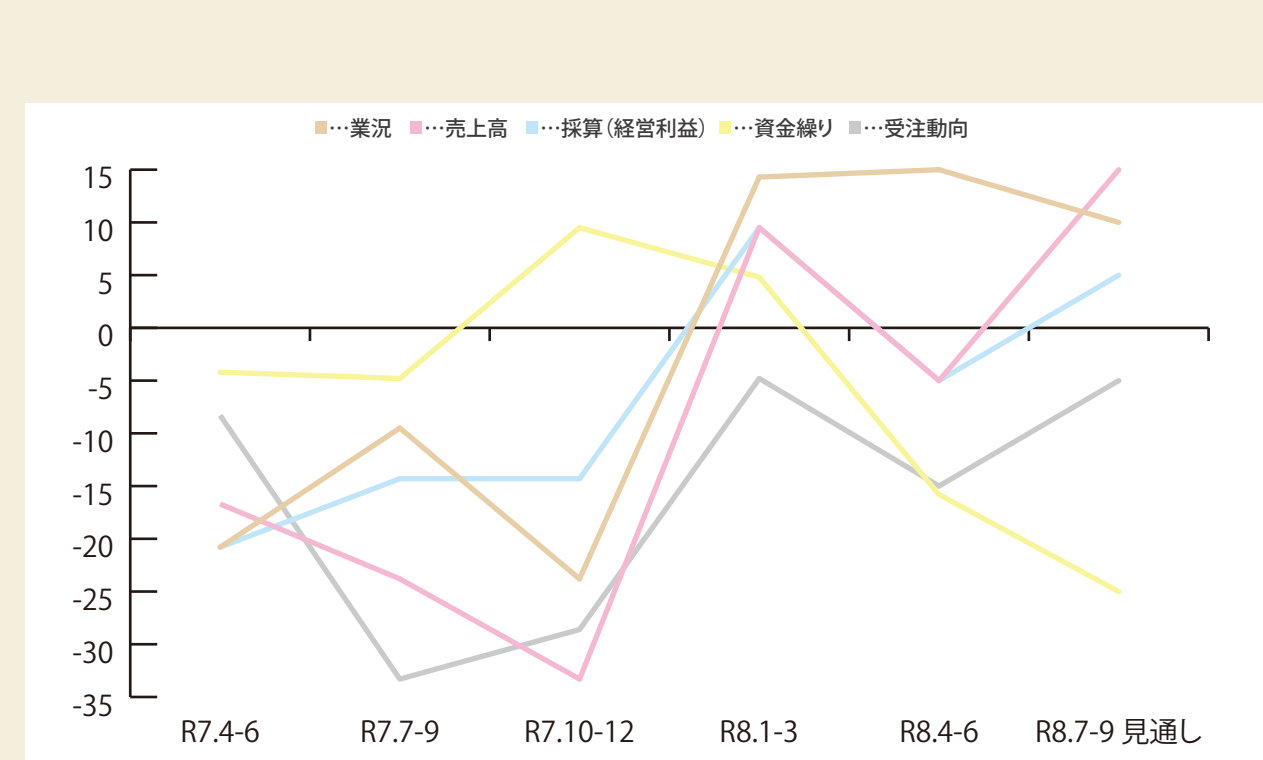
好転

- コロナ禍で延期になっていた事業の再開、半導体事業会社からの投資の依頼等
- 問い合わせ数の増加

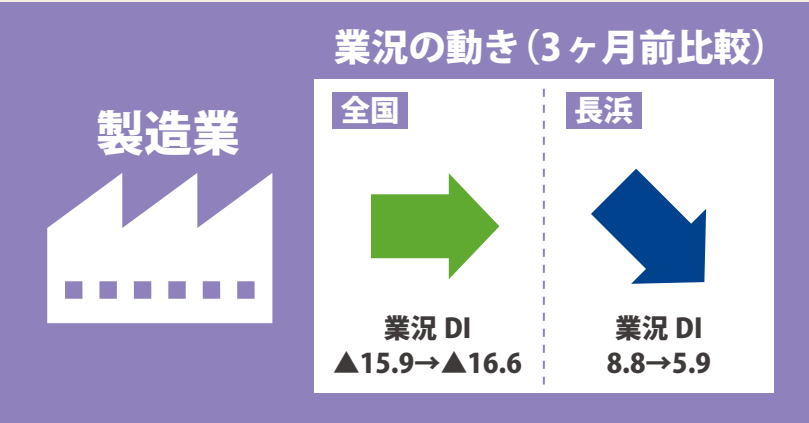
悪化

- ナフサの影響で商品や材料費の高騰により販売価格が高騰
- 販売価格の上昇に伴う計画見直しで受注の遅延、先送り

	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6	R8.7-9 見通し
業況	▲ 20.8	▲ 9.5	▲ 23.8	14.3	15.0	10.0
売上高	▲ 16.7	▲ 23.8	▲ 33.3	9.5	▲ 5.0	15.0
採算(経常利益)	▲ 20.8	▲ 14.3	▲ 14.3	9.5	▲ 5.0	5.0
資金繰り	▲ 4.2	▲ 4.8	9.5	4.8	▲ 15.8	▲ 25.0
受注動向	▲ 8.3	▲ 33.3	▲ 28.6	▲ 4.8	▲ 15.0	▲ 5.0



業種ごとの動向（製造業）



事業者の声

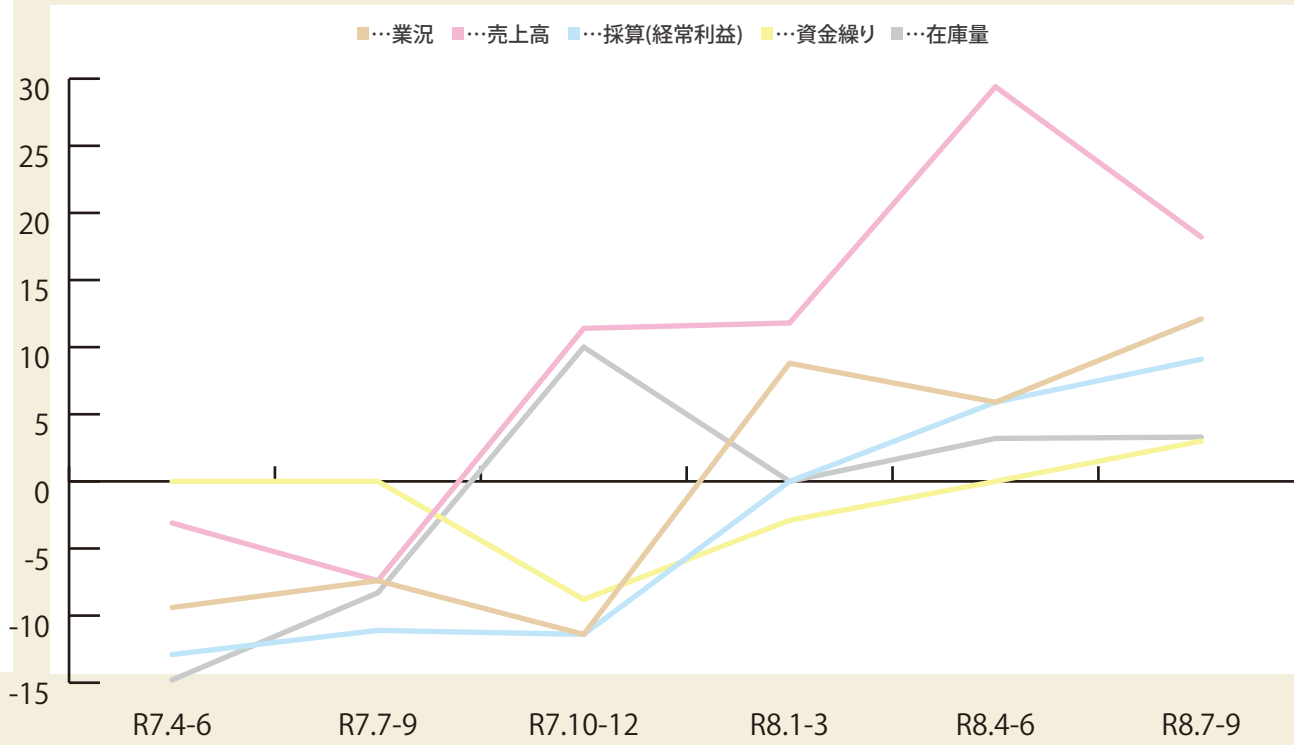
好転

- 中東情勢の影響でモノが動きにくかったが少しずつ改善してきている
- 少し半導体事業が動き始めた
- 受注量（生産量）の増加

悪化

- 包装資材（ビニール製品等）が中東情勢の悪化で欠品や値上がりしている
- 自動車関連が弱含み
- 人件費に加え、外注加工費・原材料費の高騰に販売価格の転嫁が追いついていない

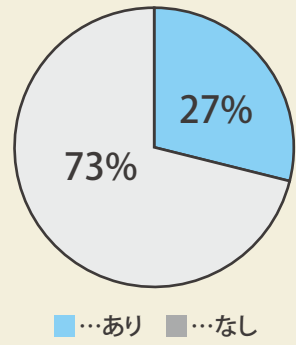
	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6	R8.7-9 見通し
業況	▲9.4	▲7.4	▲11.4	8.8	5.9	12.1
売上高	▲3.1	▲7.4	11.4	11.8	29.4	18.2
採算(経常利益)	▲12.9	▲11.1	▲11.4	0.0	5.9	9.1
資金繰り	0.0	0.0	▲8.8	▲2.9	0.0	3.0
在庫量	▲14.8	▲8.3	10.0	0.0	3.2	3.3



設備投資の有無

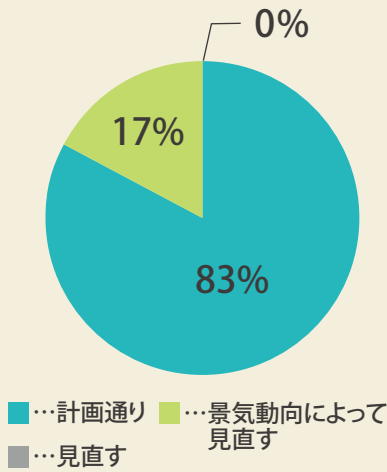
①設備投資の有無

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
あり	5	2	8	7	14	36
なし	10	17	37	13	20	97



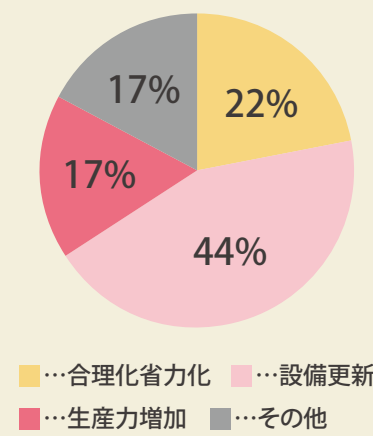
②①で「あり」と答えた場合、計画の実行について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
計画通り	3	2	8	5	12	30
景気動向によって見直す	2	0	0	2	2	6
見直す	0	0	0	0	0	0



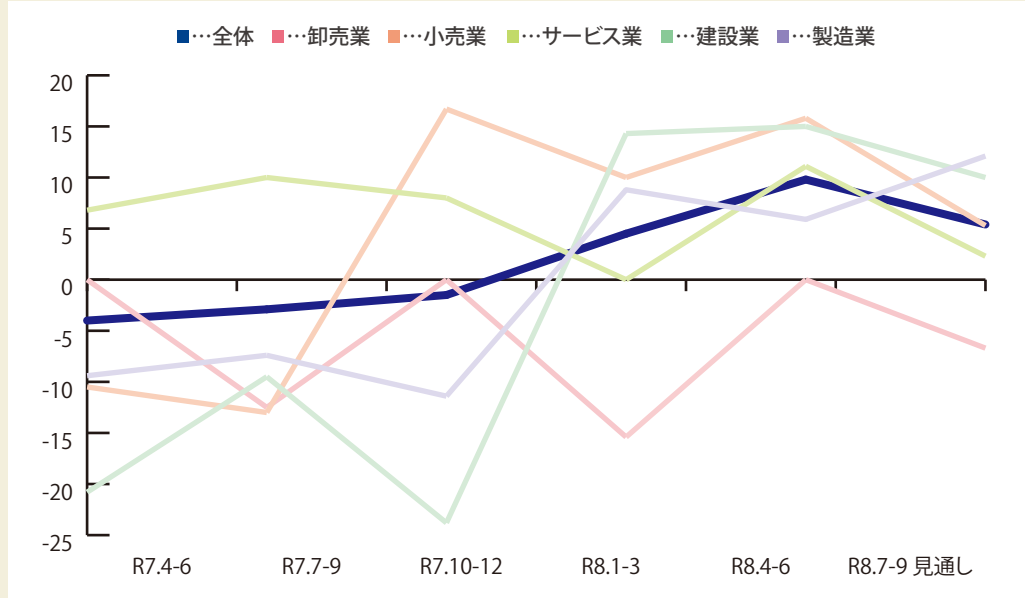
③①で「あり」と答えた場合、計画の内容について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
合理化省力化	0	1	0	2	5	8
設備更新	5	0	4	3	4	16
生産力増加	0	0	2	1	3	6
その他	0	1	2	1	2	6

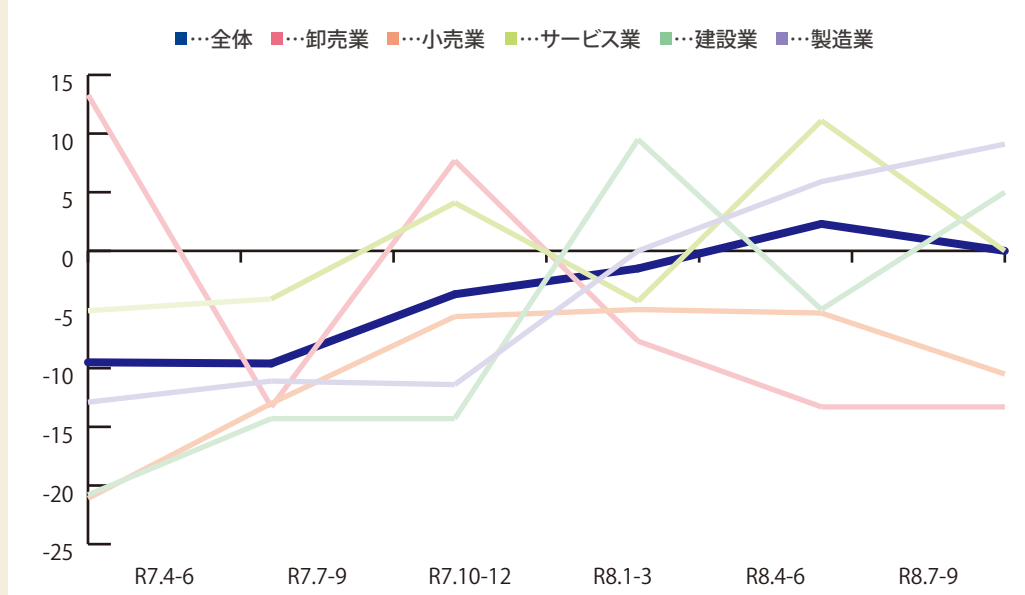


調査項目別 DI の推移①

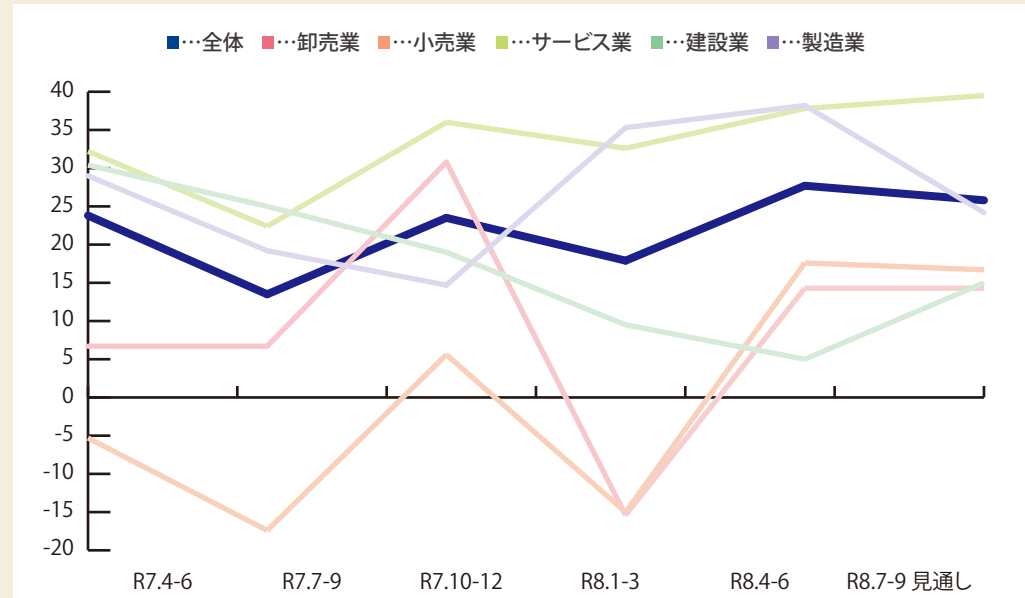
業況（好転－悪化）	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6	R8.7-9 見通し
全体	▲4.0	▲2.9	▲1.5	4.5	9.8	5.4
卸売業	0.0	▲12.5	0.0	▲15.4	0.0	▲6.7
小売業	▲10.5	▲13.0	16.7	10.0	15.8	5.3
サービス業	6.8	10.0	8.0	0.0	11.1	2.3
建設業	▲20.8	▲9.5	▲23.8	14.3	15.0	10.0
製造業	▲9.4	▲7.4	▲11.4	8.8	5.9	12.1



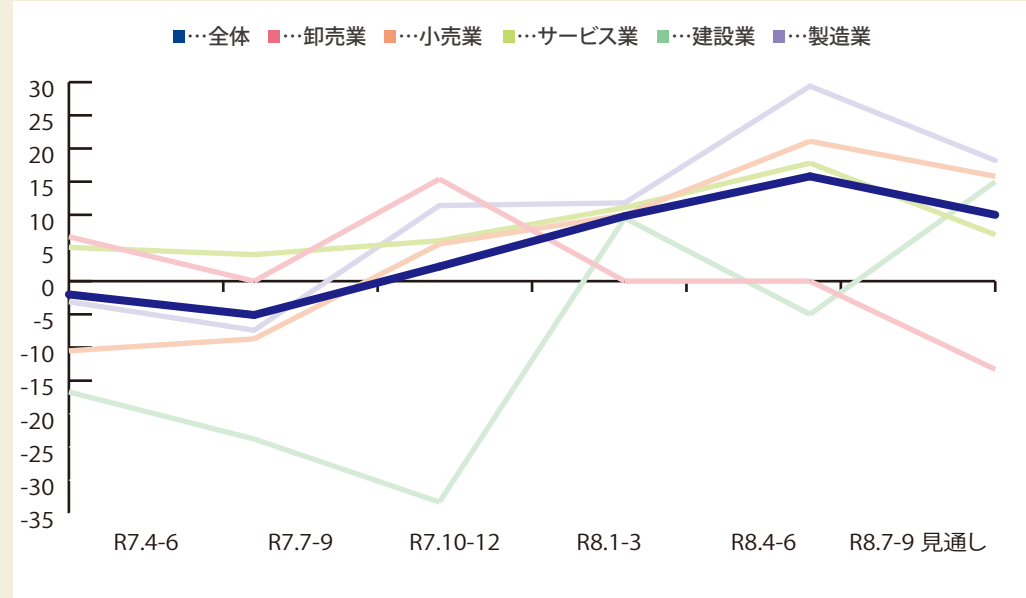
採算（好転－悪化）	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6	R8.7-9 見通し
全体	▲9.5	▲9.6	▲3.7	▲1.5	2.3	0.0
卸売業	13.3	▲13.3	7.7	▲7.7	▲13.3	▲13.3
小売業	▲21.1	▲13.0	▲5.6	▲5.0	▲5.3	▲10.5
サービス業	▲5.1	▲4.1	4.1	▲4.3	11.1	0.0
建設業	▲20.8	▲14.3	▲14.3	9.5	▲5.0	5.0
製造業	▲12.9	▲11.1	▲11.4	0.0	5.9	9.1



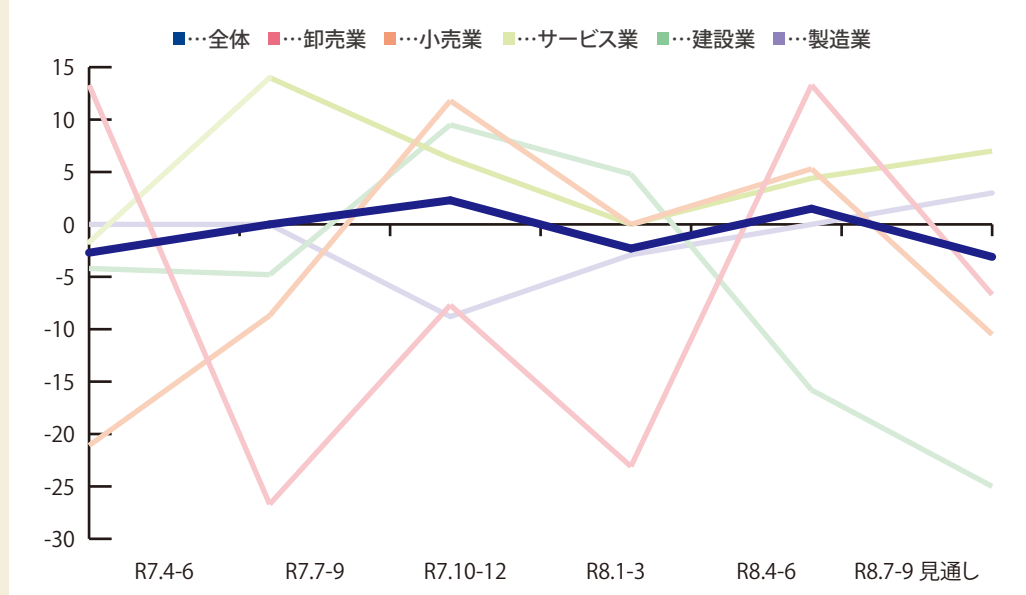
採算の水準（黒字－赤字）	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6	R8.7-9 見通し
全体	23.8	13.5	23.5	17.9	27.7	25.8
卸売業	6.7	6.7	30.8	▲15.4	14.3	14.3
小売業	▲5.3	▲17.4	5.6	▲15.0	17.6	16.7
サービス業	32.2	22.4	36.0	32.6	37.8	39.5
建設業	30.4	25.0	19.0	9.5	5.0	15.0
製造業	29.0	19.2	14.7	35.3	38.2	24.2



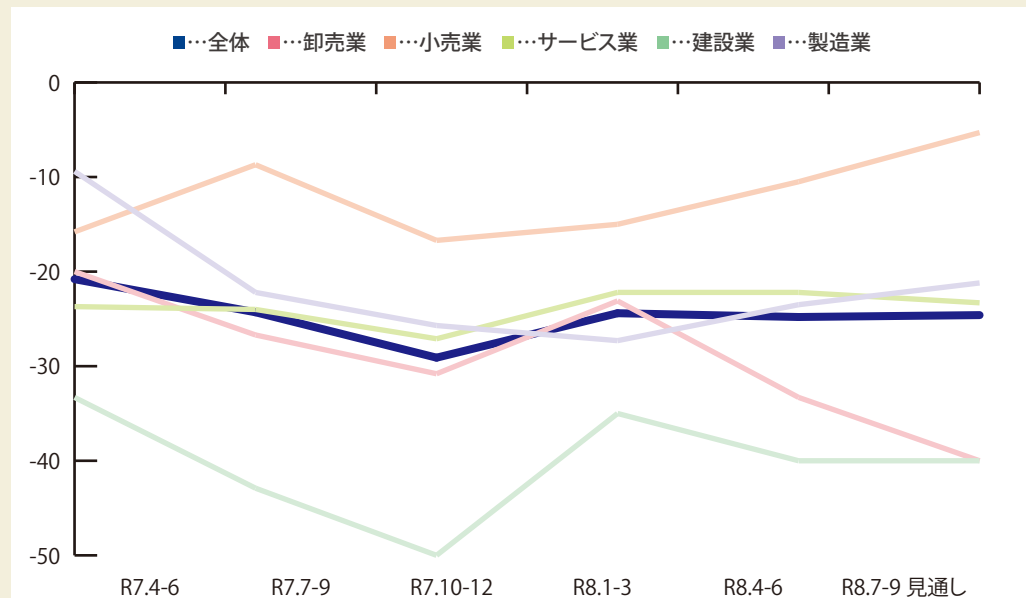
売上高（増加－減少）	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6	R8.7-9 見通し
全体	▲2.0	▲5.1	2.2	9.8	15.8	10.0
卸売業	6.7	0.0	15.4	0.0	0.0	▲13.3
小売業	▲10.5	▲8.7	5.6	10.0	21.1	15.8
サービス業	5.1	4.0	6.1	11.1	17.8	7.0
建設業	▲16.7	▲23.8	▲33.3	9.5	▲5.0	15.0
製造業	▲3.1	▲7.4	11.4	11.8	29.4	18.2



資金繰り（好転－悪化）	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6	R8.7-9 見通し
全体	▲2.7	0.0	2.3	▲2.3	1.5	▲3.1
卸売業	13.3	▲26.7	▲7.7	▲23.1	13.3	▲6.7
小売業	▲21.1	▲8.7	11.8	0.0	5.3	▲10.5
サービス業	▲1.7	14.0	6.3	0.0	4.4	7.0
建設業	▲4.2	▲4.8	9.5	4.8	▲15.8	▲25.0
製造業	0.0	0.0	▲8.8	▲2.9	0.0	3.0



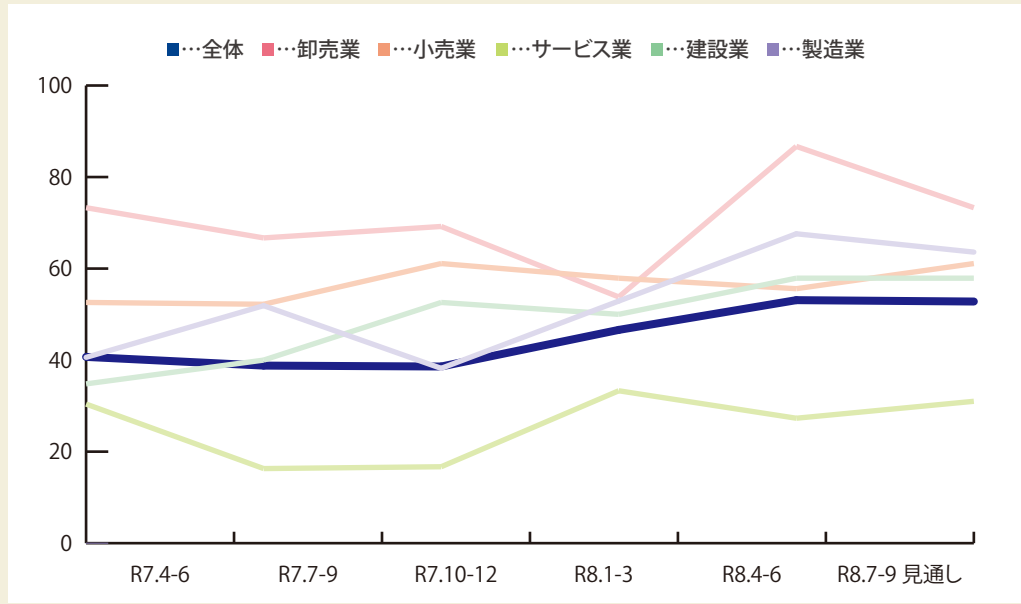
従業員（過剰－不足）	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6	R8.7-9 見通し
全体	▲20.8	▲24.3	▲29.1	▲24.4	▲24.8	▲24.6
卸売業	▲20.0	▲26.7	▲30.8	▲23.1	▲33.3	▲40.0
小売業	▲15.8	▲8.7	▲16.7	▲15.0	▲10.5	▲5.3
サービス業	▲23.7	▲24.0	▲27.1	▲22.2	▲22.2	▲23.3
建設業	▲33.3	▲42.9	▲50.0	▲35.0	▲40.0	▲40.0
製造業	▲9.4	▲22.2	▲25.7	▲27.3	▲23.5	▲21.2



調査項目別 DI の推移②

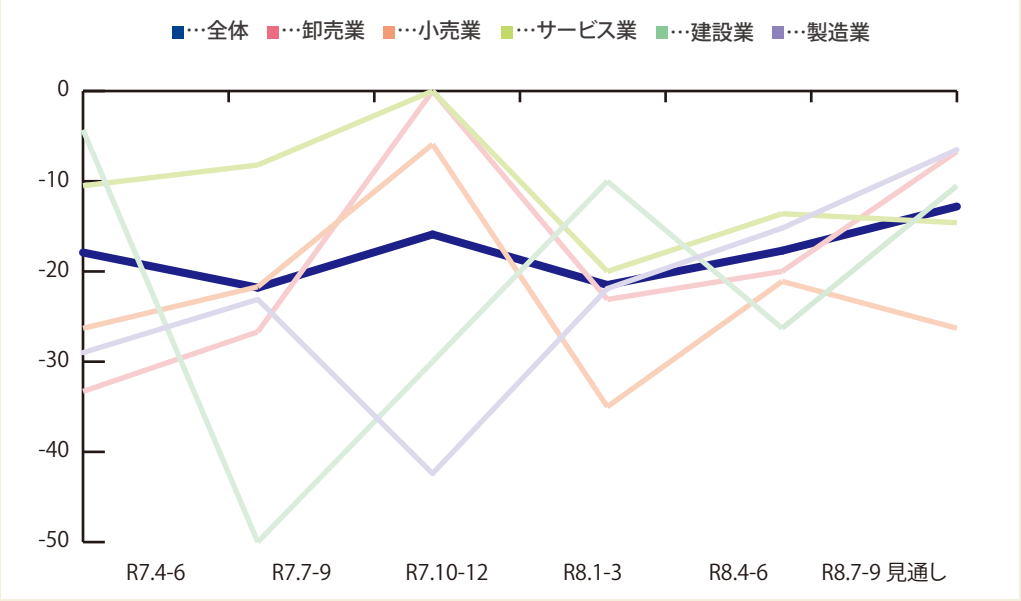
販売価格(上昇－下落)

	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6	R8.7-9 見通し
全体	40.7	38.8	38.6	46.6	53.1	52.8
卸売業	73.3	66.7	69.2	53.8	86.7	73.3
小売業	52.6	52.2	61.1	57.9	55.6	61.1
サービス業	30.4	16.3	16.7	33.3	27.3	31.0
建設業	34.8	40.0	52.6	50.0	57.9	57.9
製造業	40.6	51.9	38.2	52.9	67.6	63.6



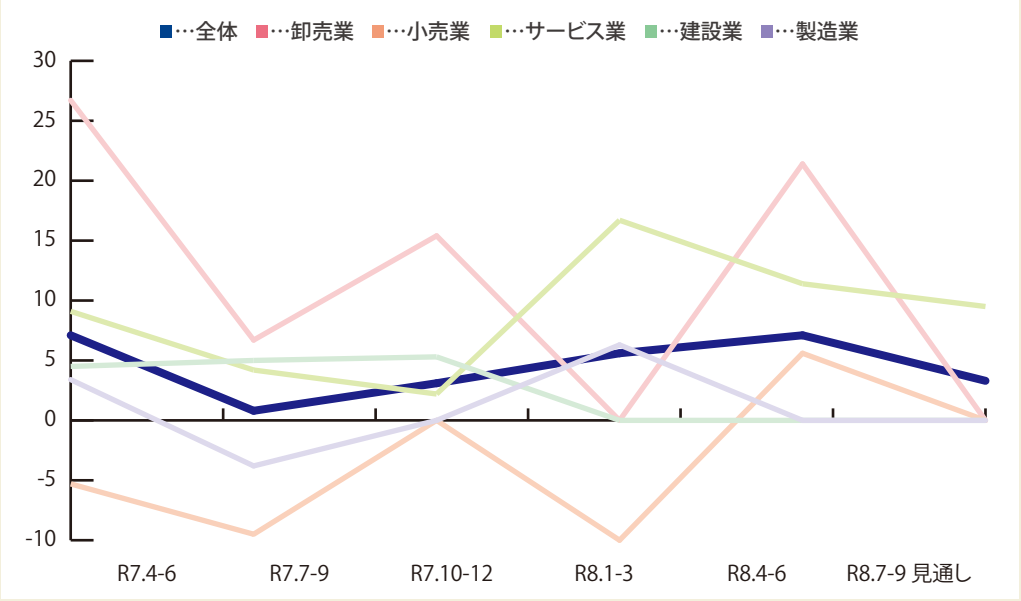
業界動向(好転－悪化)

	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6	R8.7-9 見通し
全体	▲17.9	▲21.8	▲15.9	▲21.5	▲17.7	▲12.8
卸売業	▲33.3	▲26.7	0.0	▲23.1	▲20.0	▲6.7
小売業	▲26.3	▲21.7	▲5.9	▲35.0	▲21.1	▲26.3
サービス業	▲10.5	▲8.2	0.0	▲20.0	▲13.6	▲14.6
建設業	▲4.3	▲50.0	▲30.0	▲10.0	▲26.3	▲10.5
製造業	▲29.0	▲23.1	▲42.4	▲21.9	▲15.2	▲6.5



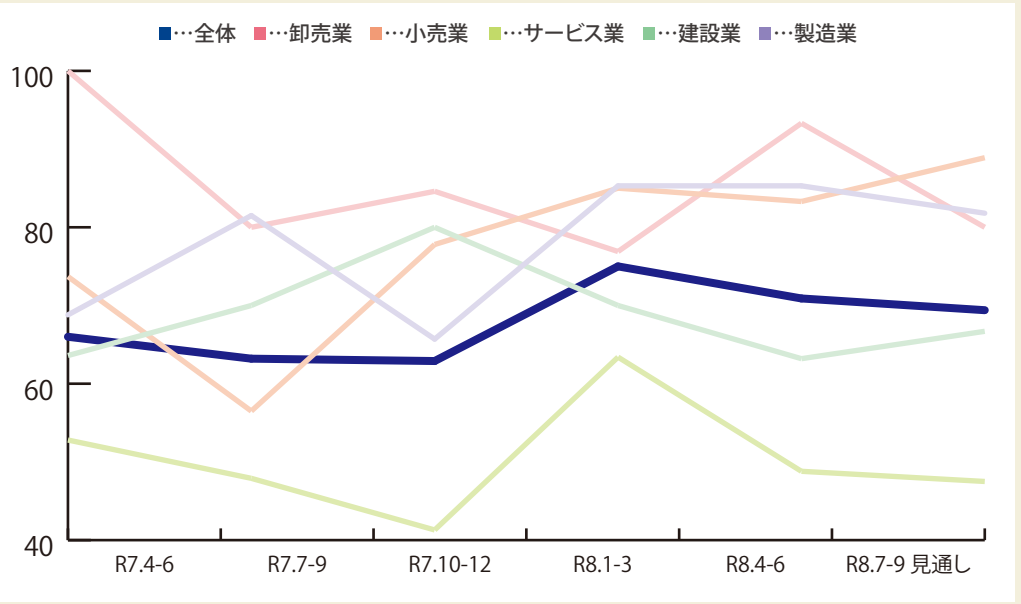
長期資金借入難度(容易－困難)

	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6	R8.7-9 見通し
全体	7.1	0.8	3.1	5.6	7.1	3.3
卸売業	26.7	6.7	15.4	0.0	21.4	0.0
小売業	▲5.3	▲9.5	0.0	▲10.0	5.6	0.0
サービス業	9.1	4.2	2.2	16.7	11.4	9.5
建設業	4.5	5.0	5.3	0.0	0.0	0.0
製造業	3.4	▲3.8	0.0	6.3	0.0	0.0



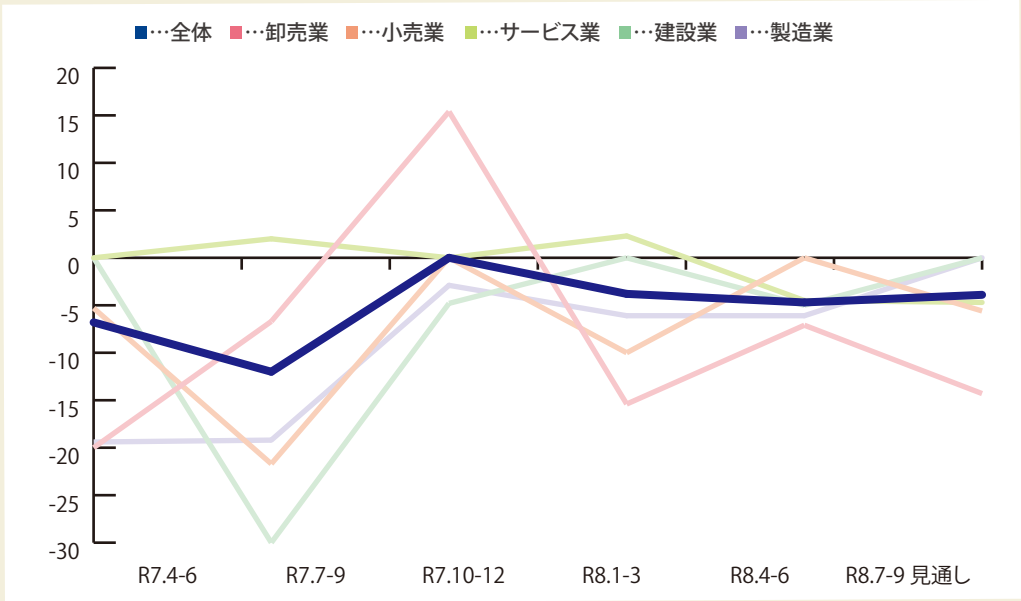
仕入価格(上昇－下落)

	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6	R8.7-9 見通し
全体	66.0	63.2	62.9	75.0	70.9	69.4
卸売業	100.0	80.0	84.6	76.9	93.3	80.0
小売業	73.7	56.5	77.8	85.0	83.3	88.9
サービス業	52.8	47.9	41.3	63.4	48.8	47.5
建設業	63.6	70.0	80.0	70.0	63.2	66.7
製造業	68.8	81.5	65.7	85.3	85.3	81.8



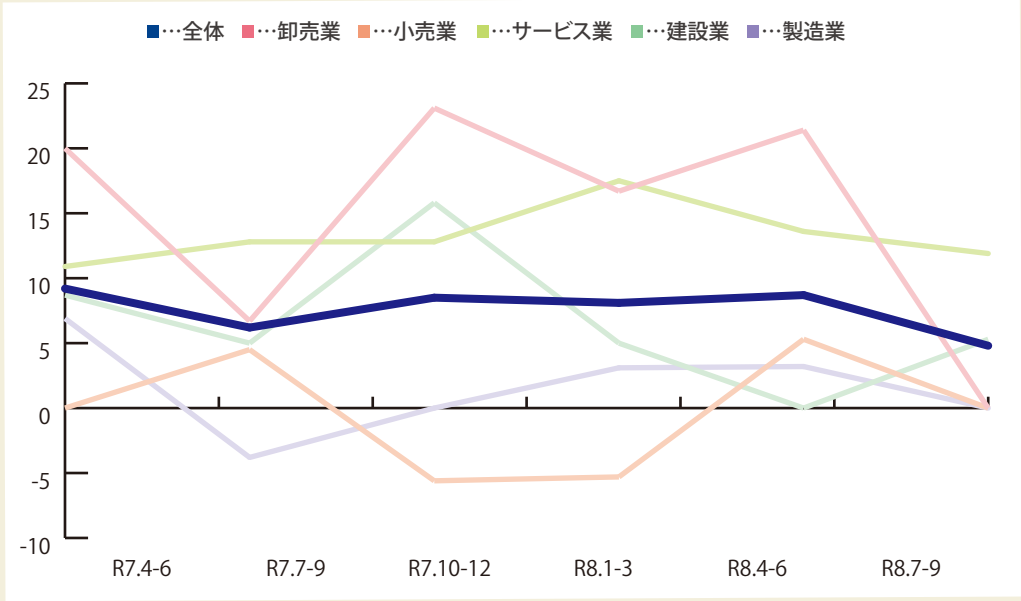
取引問合せ(活発－低調)

	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6	R8.7-9 見通し
全体	▲6.8	▲12.0	0.0	▲3.8	▲4.7	▲3.9
卸売業	▲20.0	▲6.7	15.4	▲15.4	▲7.1	▲14.3
小売業	▲5.3	▲21.7	0.0	▲10.0	0.0	▲5.6
サービス業	0.0	2.0	0.0	2.3	▲4.5	▲4.7
建設業	0.0	▲30.0	▲4.8	0.0	▲5.0	0.0
製造業	▲19.4	▲19.2	▲2.9	▲6.1	▲6.1	0.0



短期資金借入難度(容易－困難)

	R7.4-6	R7.7-9	R7.10-12	R8.1-3	R8.4-6	R8.7-9 見通し
全体	9.2	6.2	8.5	8.1	8.7	4.8
卸売業	20.0	6.7	23.1	16.7	21.4	0.0
小売業	0.0	4.5	▲5.6	▲5.3	5.3	0.0
サービス業	10.9	12.8	12.8	17.5	13.6	11.9
建設業	8.7	5.0	15.8	5.0	0.0	5.3
製造業	6.9	▲3.8	0.0	3.1	3.2	0.0



その他業種別自由意見

	好転👍	悪化👎
卸売業	- 国際情勢や経済状況は良くないが、余力のある得意先からの問い合わせや見積依頼が増えてきた。 - 見積から契約に繋がるが増えてきた。	- ガソリン等燃料費、包装資材の価格上昇。 - 商品の入荷難が発生している。 - 中東情勢の問題からオイル類の入荷が滞り、現在も不安定なままである。その他の販売商品の仕入価格の値上がりは未だに続いている。
小売業	- 価格転嫁に対して良い意味でも悪い意味でも一定習慣化され、客先に於いても抵抗感が低くなった気がする。 - ながはま割のスタートにより、今まで購入者ではないお客様が掘り起こされている感がある。(リピート来店、購入につなげるのが課題) - エネルギー価格の上昇から営業車を全てEVに切り替えた結果、光熱費の抑制につながった。 - NHKの大河ドラマの放送を契機に来街者が増加しており、平日でも多くの観光客が見られる。 - 卸売先追加により売上増加。	- ながはま割による先買い、予約買いが目立つため終了後の反動は恐い。 - 多くの顧客先の業況が悪化していることから取引の問い合わせが低調に推移した。 - 石油由来の消耗品や包装資材が価格面でも数量面でも調達しにくくなっており、販売の際の包装方法の変更を余儀なくされている。この状況が続けば商品の種類変更等も検討していく必要がある。 - 仕入価格が上昇している。 - 中東情勢による原料や資材の不足が大きく、価格上昇だけでなく仕入自体に問題が起きる可能性が高い。
サービス業	- 不動産取引が活発。家賃水準の上昇による家賃の見直し相談が増加。 - 事業の集約を行い効率よくなってきた。 - 大河ドラマの影響で観光客増加。 - 新規利用者が増えた。 - 少しずつではあるが若手社員が増加している。 - 問い合わせや受諾件数が増加した。 - 新規依頼はきているが、設備関係の納期遅延でスケジュールが組みにくい状況。 - 値上げに伴い収支は少し安定してきたが、主の事業を継続しながら資金を確保するため新しい事業をはじめた。	- 顧客の業務縮小の動きがみられる。 - 全般に集客が低調である。 - 去年の9月・10月の国スポ特需は大きかった。中東情勢の影響で仕入価格、納期が不透明。 - 燃料費が高騰しているが価格転嫁が難しい。 - 物価高騰により消費者の節約志向が強まり購買意欲が低下している。貸付金利が上がったのも若干響いてきそうかな？ - 体調不良等により利用の休止、中止が多かった。 - 人件費や燃料価格等経費の上昇。 - リフォーム案件の見積りは納期の見通しが立ちにくく提案しにくい状況。 - 顧客の値段への認識が厳しくなった。
建設業	- コロナ禍で延期になっていた事業の再開、半導体事業会社からの投資の依頼等。 - 問い合わせ数の増加。	- ナフサの影響で商品や材料費の高騰により販売価格が高騰した。 - 販売価格が上がり売上げが上昇したように見えるが収支は厳しい。 - 材料の価格が上がってしまうことで工事の時期を今ではないと考える動向に翻弄されている。 - 販売価格の上昇に伴う計画見直しで受注の遅延、先送り。
製造業	- 豊田博覧会の影響で前期に引き続き観光客が増加し店舗での売上げが好調。 - 中東情勢の影響でモノが動きにくかったが、少しずつ改善してきている印象は受ける。また、今後の受注はまずまず見込まれ価格転嫁をしっかりと実施することで採算も改善する見込みである。 - インバウンドをはじめとする観光関連等、従来の商流とは異なる業種からの仕事が少しずつ増えてきている。 - 少し半導体事業が動き始めた。 - 環境対応船舶関係の更新重要が依然旺盛。 - お客様からの受注が増加し、売上・利益ともに増加した。 - 春から閉鎖しているホルムズ海峡がいつの間にか材料が入ってくるようになり、お客様も動き出した感じがする。	- 包装資材(ビニール製品等)が中東情勢の悪化で欠品や値上がりしている。 - 受注残で今のところなんとか繋いでいるが新規の話がなかなかない。 - 原材料や副資材関係が大幅に値上げされており価格交渉の手間やコスト、タイムラグもあり採算が厳しい。先行きが不透明であり販売先からの発注も慎重である。 - 原材料の高騰、光熱費・物流費等コストの上昇。 - 本来は人件費の上昇分も価格転嫁したいが外注加工費の値上げに加えて原材料費の高騰が激しく販売価格の値上げが追いつかない。 - 原材料等の値上がりや品薄状態。また買いだめの資金繰り。 - 購入品価格が倍増。 - 自動車関連が弱含み。 - 部品の調達難が増加し部品不足による出荷への影響がある。 - 中東情勢の影響により原料価格の高騰。 - ガムテープ、ナイロン袋、プチプチ等材料が思ったように入荷しない。 - ホルムズ海峡閉鎖により物流が滞ったことで価格高騰が止まらない。受注も大変。